

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371500766		
法人名	株式会社アイ・ユーネット		
事業所名	グループホームとまり木名東		
所在地	名古屋市名東区猪子石三丁目113番地ワークステーションビル1F		
自己評価作成日	平成23年2月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2371500766&amp;SCD=320">http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2371500766&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中村区松原町一丁目24番地 COMBi本陣S101号室
訪問調査日	平成23年3月18日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・限られた空間を有効に活用した環境づくり・利用者さん1人ひとりに合ったケアの在り方・一緒に料理を作ったり、散歩や外出・常に声かけ・コミュニケーションを図り、楽しく過ごして頂ける様に心掛けています。利用者さんの食べたいもの等をお聞きして、一緒に買い物に行き、手作りで調理をし楽しんで頂いたり、季節感を感じて頂く為、定期的にバス旅行を実施させて頂き、気分転換に努めている。尊厳を大切に利用者の満足度の向上を図っている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

4階建ての1~2階部分を改装したホームである。「最善の介護サービスを誠意と人間愛をもって！」を運営理念として、9年前に開設した。代表者以下職員は、運営理念に基づいて、利用者の人権を尊重した支援に努めている。さらに、毎週、提携医と看護師が交互に訪問して健康管理を行っており、医療面での支援を重視している。医療面で連携しながら、ホームでの看取りの実績もあり、住み慣れた生活を最期までおくることが出来ている。日常的に、近くのパン屋や喫茶店へも気軽に出掛けられており、住宅地のなかであるが外出も行っている。利用者がホーム前の駐車場で日向ぼっこをしたり、植木に水やりをしていると、近所の方が声を掛けてくれたりして、地域に溶け込んだホームの住人として認められているのも、利用者にとっては大きな喜びと言える。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、目のつくところに掲示し、ミーティングで理念のあり方・課題に取り入れたりしているため、理解が出来ていると思われ、利用者さんと共に生活する事がサービスに繋がっている。	理念は、職員の目に触れやすい事務所やトイレに掲示してあり、名刺大に印刷して名札にも入れてある。また、ミーティング時には、日常のケアのなかで、理念をいかに活かしていくのかを確認し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩等で近所の花屋さん・スタンドの方と挨拶したり、近くのパン屋さんに行き、地域の方と交流している。近所の方で散歩のついでにホームに遊びに来ていただいたり、している。	町内会に加入し、敬老会に出席したり、盆踊りや学区の文化祭の見物に参加したり、学区の清掃や草取りにも参加しており、地域との交流を行っている。また、フラダンスや落語のボランティアが訪問し、利用者と一緒に楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や買い物や地域行事などを通し、地域の方と交流したり、意見交換したりして理解を深める様に努めているが、もう少し施設から発信していきたいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見を活発に出して頂くために、行事から参加して頂き、その中でご家族さん同士の交流が深めて頂き、意見を言って頂きやすい環境づくりに努め、ご家族さんの率直な感想や質問などを頂いたり、施設の現状のサービス・今後のサービスの意見交換をさせて頂き、運営に反映させて頂いている。今後は、回数を増やしていきたい。	今年度は家族の出席が得られず、1回の開催であった。会議の際に、家族から外出の機会を増やして欲しいとの提案があり、利用者や食材購入に出掛け、食事作りやおやつ作りを月2回ずつ、毎週漬物作りを行うこととした。	運営推進会議は、地域の方や家族との交流の機会にもなるため、次年度に向け、開催回数を増やしていくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上の疑問点や他施設の対応方法などの市町村との意見交換により、サービスの質の向上に努めている。区役所に行事報告書・運営推進会議議事録をお渡しして、活動状況等を把握していただく様になっている。	ホームには、生活保護の方が入居しており、定期的に区の担当者が訪問して面会を行っている。また、市の介護関係の研修等には、職員が交代で出席し、その情報を職員間で共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、しないという理念に基づき、日中鍵をかけずにチャイムなどを設置し、ケア全体で見守り強化・自由に努めている。落ち着きのない、また転倒の危険のある利用者様に対しては、居室にセンサーマットを設置したりして問題行動の予防に努めている。	身体拘束はしないこととし、職員は研修で身体拘束にあたる行為や言葉について学び、利用者に接している。玄関は、夜間以外施錠せず、チャイムで把握している。事故防止上、センサーマットを設置している方もいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングにて勉強会を実施し、虐待について正しく認識し(言葉遣いも含め)意識を高めることで防止に努めている。スタッフ同士もお互いにコミュニケーションを図り、負担軽減に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用されている方もお見えになりますし、必要な方には、働きかけをして活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を読むだけでなく、具体的・事例をあげて説明して、ご理解・安心して頂ける様に努めている。不明そうなこと、疑問点をだして頂きやすい雰囲気作りをしている。関係づくりが大切だと考え、小さな事でも挙げて頂く様に心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事などに参加して頂き、くつろいで頂いた状態で意見交換等・直接お話しできる機会づくりに努めている。その他3ヶ月に1回介護計画・その他サービスなどについてご意見頂けるような取り組みをしており、多数のご意見ご感想を頂いている。	家族の訪問が多い方もおり、その際に話し合ったり、さらに、3か月に1回、家族へアンケート用紙を送付し、意見や要望を聞いている。要望で「フリー入浴」を取り入れ、月1~2回、入浴の機会を増やした。また、毎月、家族へ便りを発行している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケアの本質を考え、現場の自発性を最重要視し、ミーティングで活発な意見交換できる様に努めている。全体の場では言いにくい事も考え、意見箱を設置し、様々な意見が出ている。意見等を全体で考え共有する事で、皆で運営できる様に努めている。	月1回のミーティングには、原則全職員が出席している。ホーム事務所に職員用の意見箱があり、代表者が確認している。行事の予算や駐車場確保などの提案に、代表者が紙面で回答し、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場状況・勤務状況等を把握し、話し機会も設けて、考えていること、悩んでいること、成果などを話すことにより向上心に繋げている。意見箱を設置し、意見を拾いやすいように努めている。労働条件も見直しました。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティングで日常の課題点・レクの活発化などの意見交換を通し、皆で共有できる様にし、成長していけるように努めている。その他、外部の研修に積極的に参加できるよう努めて、ここでのレベルアップも図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修等で同業者とのグループワーク等で意見交換・情報交換・課題報告などを通して、施設でのサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談やアセスメント情報からご本人と共通の課題を見つけ、職員と同じテーブルでお茶を飲んだり、会話する機会をとれるように努めており、ご本人が安心して生活できるよう気持ちを受け止めるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話に耳を傾け、ご家族の思いを受け止め、スタッフが情報を共有して、ご家族様が不安な点などを見出しお話しして安心して頂ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのような支援が必要か見極め、G・Hで出来ること・出来ないことを明確にし、他のサービスを選択して頂けるように努めて、出来ることは、ご本人の能力を最大限発揮できるようサービス提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々にできることは、職員と共に行って頂き、共感して頂いている。利用者さんがやりたい事などを見出し実現し、一緒にやって頂いた時は、声かけをし、喜びや楽しみを共に感じながら、安心した生活を送って頂き、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設とご家族さまの両方で支援するよう心がけ、行事に参加していただいたり、面会時などに写真等を見て頂いたり、情報交換しながら利用者さんが安心して生活できるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様以外のなじみの方などにも、手紙や写真を送付しており、近況報告をしており、居室なども昔の写真などを飾ったりして思い出して頂く様に努めている。	家族の訪問の際に、外食に出掛ける方がいたり、家族と外泊をすることもある。さらに、家族へ電話をかける利用者の援助もおこなっている。また、散歩中に知り合った近所の方が訪ねて来ることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のレクリエーションや行事等で職員が間に入り、コミュニケーションを図って孤立しないように配慮している。様々なことを共にして利用者さん同士もお互いを知り、支え合ったり助け合ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方も遊びに見えたり、電話等で状態経過を聞き、相談・アドバイスをさせて頂いたり、行事等もお誘いするよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さんの希望や思い等を直接聞いたり、困難な場合は、本人の喜びや楽しみ等を見出しながら、安心できる場や状態でサービスに努め、職員全員で共有し、支援に繋げるようにしている。	日常生活の支援中に、何気ない会話の中から聴き取って、申し送りノートに記入し、全職員で共有に努めている。言葉での表現が困難な方には、表情、動作、目の動き等で察し、職員間で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者さんの生活歴等の情報提供が得られるようにご家族に理解して頂き、事業所独自の用紙に記載してもらい、職員全員が把握し、本人らしい生活ができるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、コミュニケーションをとりながら、ご本人のできることをみつけ、生活の中に取り入れる様に話し合いの場を設けたり、実際に行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人と日常生活の中で話し合い、ご家族とは、プランに対する意見書を頂いたり、面会時にご意見を頂いたり、また利用者さんの担当を決め、課題やケアについてのご意見を出してカンファレンスで他職員との意見交換をしながら、利用者さんができることを実施し、安心して過ごして頂けるようにプランを立てている。	月1回のミーティングで職員が出席して、申し送りノートなども参考にして、計画作成担当者を中心に、話し合いを行っている。定期的な見直しは、3か月に1度行い、家族に説明し同意を取っている。また、容態が急変した際には、新たな援助内容を検討し、見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果等が介護記録表・介護日誌・申し送りノートに記載し、職員全員が情報共有を徹底して、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さんのニーズに当施設で可能な事・少人数ならではの深い関係性でのきめ細やかな支援等を積極的に取り組む姿勢で、様々な支援を積み重ねて、満足度の向上につながるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々や、医療関係・地域の方々の飲食屋さん等、さまざまな方たちに支えて頂きながら支援できる様に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	面会時に馴染みの医師の確認・提携医療の説明・同意を頂いております。利用者様が気軽に医師に相談できる環境を整えるよう努めている。急変時や疑問な事なども対応して頂いております。	契約時に、家族にかかりつけ医と提携医の説明を行い、選択して頂いているが、多くの方が提携医に受診している。内科医は月2回、歯科医の往診もあり、皮膚科などの他科受診は職員で対応しているまた、看護師が毎週健康管理の為に訪問している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との契約により、週1回の健康チェックを実施して頂きながら、情報共有し、疑問に思うことや相談等を密に図れるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日常から、入院回避の為、小さな変化も見逃さない様、努めている。入院になった際は、情報提供を積極的に行い、病院・提携医療機関等密に連携を図り、早期退院できるよう努めている。面会に行き、少しでも安心して頂ける様、努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の状況・他利用者様の状況に合わせて、主治医・訪問看護・施設・ご家族で話し合う場を設けて、主治医から医療的な見解をご家族に話して頂き、希望等をお聞きして、医療連携で可能な支援を明確にお伝えして、希望に沿うように努めている。段階的に話し合いの場を設けている。	ホームでの指針と対応については、入居時に家族に説明をしているが、利用者の状態に応じながら、その都度、説明をして選択するようにしている。ホームで出来るまで支援を行っており、看取りの実績もあり、職員の研修も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練の際に応急手当を実施しており、日常で急変が起きた場合は、記録に出来るだけ詳細に記入して、情報共有するように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、避難誘導の方法・各役割を把握し、自力で避難ができない方に搬送練習等行っており、非常食等も準備してある。	年2回、避難誘導訓練を実施している。2階の利用者を1か所に誘導し、ベランダに出る訓練を行った。夜間の連携は、管理者の指示で対応する体制となっている。	昼間は4階の関連事業所との協力の確認の他、地域の方との係わりを増やししながら、緊急時の協力体制の構築を継続して実施されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、個々の気持ちを思いやり、各利用者様個別ケアの基本とし、大切に思うことで意識の向上を図っており、尊重した言葉使い、接する態度を意識する様に努めており、入浴・排泄・外出等の誘導の順番等も考慮し、機嫌を損ねない、または羞恥心をもたない様に心掛けている。	利用者個々の人格を尊重した、言葉遣いや接し方をしている。毎月のカンファレンス時に、声かけ、尊厳、入浴、排泄などについて話し合いを行い、日々のケア向上に活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	担当制により、各担当利用者さんの希望を見出し、好きな食べ物やおやつづくりを買い物から一緒に行き、リフレッシュし皆で一緒に作ったりして楽しい時間を過ごしている。施設内で自由を見出す事は、困難であるが、あきらめず小さな事からチャレンジする様、努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の精神状態や健康状態を把握し、個々にあった生活の流れを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に買い物に行き、ご自身で服を選んで頂き、個性・精神の安定につなげて、服をおほめしたりして、楽しみの一環にして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理から食べている時・片付け等、積極的に参加して頂き、コミュニケーションを図りながら楽しんで頂いている。出前・外食・希望メニューなども取り入れ、一緒に買い物・調理を行い、食べる以外も楽しんで頂けるように努めている。	業者のカロリー計算付きの食材で、利用者も参加して作っている。月2回、利用者の希望の献立での食事やおやつ作り、その際には、利用者も一緒に買い物に出掛けている。また、時には出前を取ったり、外食にも出掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量をチェックして把握し、一人一人の偏りや不足がないよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後は、口腔ケアの声かけをして、全員の方に見守りや介助を行い清潔保持・感染症予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立を目指し、リハパンの方もお昼は、声かけ誘導にて布パンツにして頂いたり、ひとりひとりの排泄感覚を把握し、声かけ誘導・介助・見守りを行っている。	全介助の方もいるが、紙パンツとパッドを使用し、職員が声をかけ、トイレに案内している。トイレの場所が分からない際も、職員は声をかけ、自立を目指している。また、ポータブルトイレは使用せず、夜間もトイレへ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便の日数を把握し、自然に排便できるように、食事の内容を考慮したり、おなかの体操をして、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調にも配慮し、拒否がある方も入って頂ける様に工夫して、声かけや誘導や入浴方法も個々に合わせた支援に努めております。フリー入浴日も設定して希望者が入浴して頂く事も実施している。	週3～4回のフリー入浴の機会を設け、入浴の回数を増やしている。さらに、重度の方には2人体制で支援している。拒否気味の方には、無理強いせず、言葉かけに工夫をして、入浴を促している。また、菖蒲湯、柚子湯などもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後や運動後は、休息をとって頂いたり昼寝をしたりとメリハリをつけ日中活動して頂き、夜は十分に睡眠がとれるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人ごとのファイルに処方せんを入れて確認し、服薬の目的・量・作用・副作用等を把握して状態の変化をチェックし、飲み忘れ・誤薬のない様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとり生活の中で合った役割を楽しんで頂き、満足感を持って頂いている。パン屋に行ったり、様々な活動することで気分転換を図っている。各担当者が利用者さんに満足して頂ける様に、日常からくみ取れる様に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	健康管理に注意して、今しかできないことを大切に散歩・外出・喫茶店・食事等・バス旅行に外出して気分転換に努めている。日常生活の中にも外出して頂けるように努めている。	日常的な外出は、近所の散歩の他、近くのパン屋、喫茶店へ出掛けることもある。さらに、関係事業所とも連携しながら、年4～5回バス旅行の機会も作っており、梅、桜見物、万博公園、セントレアなどへ出掛け、食事をして帰って来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日々お金を管理して持たれてみえる方はみえないが、買い物・外出の際には、社会性の継続・喜びを目的としてお金を持って頂き、お支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいときは、かけて頂いております。手紙や年賀はがきもご自身で書いて頂くよう、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の衛生面や整備に努めている。各利用者様がTVを楽にみることができるようソファを配置し、クッションや足台などを置いたりして、落ち着いて過ごせる空間づくりに工夫し、毎月、壁面に季節感を利用者さんと一緒に作って取り入れている。	1階のリビングは、採光、風通しも良く明るい。コンパクトな設計であるが、利用者同士が肩を寄せ合って、会話を楽しんでおり、職員の見守りは行き届いている。また、壁には季節に応じた貼り絵の作品や、外出先や行事の写真などが貼ってあり、日頃の生活が垣間見える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者様同士で過ごせるよう配慮したり、ひとりが良い方には、落ち着ける場所を提供している。気分転換で食事の席なども替えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が今まで使われていた家具や布団や写真・仏壇などを使って頂いたり衣類のダンスなども出し入れがしやすいように名札を貼ったり工夫し、少しでも安心して生活して頂ける様に努めている。	改装型のホームであるため、居室の広さは多様であり、ベッドは利用者の使い易い向きに置いてある。居室は、長年使い込んだダンスやテレビを置いていたり、使い慣れた自分の布団を使用している方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりの身体状況・周辺状況に合わせ、危険防止・安全な環境づくりに努めている。		